

YMCA Camp 100 Stories vol. 10



**失敗や困難を
繰り返した経験が
「人生の引き出し」
を作った**

竹下 充

Takeshita Mitsuru

公益財団法人北九州YMCA評議員

▼ 幼い頃から気付けばYMCAという存在が近くにあった

私の父はYMCAの幼稚園卒業者であり、それもあってか幼い頃からYMCAは身近な存在でした。私自身がYMCAに直接関わったのは、現在の北九州YMCAの建物で運営されていた予備校に通い出した時からです。

当時、年に1回「YMCAA祭り」が開催されており、その時の担任からボランティアとして祭りに携わらないかと誘いを受けたのがきっかけでボランティアリーダー活動を始めました。それからは、それぞれが強烈な個性の仲間達と共にキャンプを一から作り上げて行くことが楽しくなり、健常児のキャンプ、スキー、サッカーのリーダーや障害児と健常児の統合キャンプである「のびのびキャンプ」(2006年終了)にもものめり込んで行きました。

▼無償で助け合う人達との出会い

社会人になり十数年経った頃、勤務先の会社が大手芸能プロダクションと組んで“小児がん征圧キャンペーン”として1万人規模のコンサートを主催することになりました。その時、とんでもない業務命令を受けました。イベントのテーマが“小児がん”なだけに、その子ども達の介護も出来るボランティアを最低100人集めてそのチーフをやってくれというものです。まずどうやったら集められるか悩んでいた時に、前記したYMCAのびのびキャンプのヘッドカウンセラーをしていた森脇賢司先生に相談したところ、友人で福祉専門学校の教師をしている方を紹介していただき、課外授業として約200人もの生徒を連れて来てくれる事になりました。その時の驚きと感謝は今でも忘れられません。

YMCAに集う仲間には、困った人が居ると無条件で助ける人が多く居るように感じます。そしてそれが相互通行となり、助け合いと成っていく。私自身、学生の頃から、現在でもYMCAで出会った仲間達に助けられ続けています。だからこそ、人のために何か手助けをすることは惜しみません。そんな素敵な出会いが普通にあり、しかも繋がっていることが何より嬉しいことです。余談ですが、この1万人コンサートの招待客に配るプレゼントである「北海道直送毛蟹」を会社と交渉の結果、ボランティア学生全員と先生にも渡すことが出来、ささやかですが御礼が出来ました。

▼子どもの頃の多くの経験が大人になって生きる

私は、現在に至るまでに経験したことの多くはYMCAでの活動及び仲間達とのふれあいの中から得られたものです。おかげで、初訪問のキャンプ場に行った時には「秋になったらこれが出るな」「冬はこんなことも出来る」と今でも想像が膨らみます。同じキャンプ場に再度訪問した時には、その季節の自然を使って何が出るかを具体的に頭の中でイメージすることが出来ます。だからこそ、より四季を楽しみ、新たな体験がまた増えていきます。色々な場所でどうしたら面白いか、どうしたらより効率的か。そのような思考や先読みする癖がついたのもYMCAのボランティアリーダーの時の経験から活かされていることです。そしてそこには心の底からワクワクしている自分が居ます。そんな経験が、咄嗟の時に開くことの出来る「知識の引き出し」を人より多く作ってくれたように感じます。そしてそれが自信になっています。

子どもの頃から社会に出るまでにどれだけの経験と出会いがあるかが人生を大きく変えてくれます。そんな貴重な経験をしてきた大人が親になり、自分が伝えて貰ったことを我が子や次の世代の子ども達に伝え、引き継いでいって欲しいと思っています。

実はYMCAにお願いがあるのですが。それは親がターゲットの親子プログラムの実施です。理由は、せっかくキャンプで取得した子供達の「知識の引き出し」の凄さを親たちが理解していないからです。子ども達が家に帰り、キャンプ中の話をしても、「そう、良かったね」で終わってしまうのです。開かない引き出しになってしまうのです。子ども達を育てるために、その親を育てる事も必要です。親たちが子どもと共に感動し、知識を共有する。親子で、いつでも開けることの出来る、生きた「知識の引き出し」を作るキャンプをぜひ実施して欲しいと思っています。

▼自分が活かされる場所でのびのびと

私にとってのYMCAとは「自分が活かされる場所」です。ボランティアリーダーの時、私が突拍子のないことを提案しても、いつも仲間達が「良いね！やろうよ！」と勢い良く賛成してくれました。あの時の皆で楽しいことをしようという気持ちやどんなことも皆で乗り越えたあの時の経験が今でもYMCAのイメージそのものです。自分という人間をさらけ出して、それを皆が認め合えるのびのびとした空間をこれからの世代のリーダーや子ども達にもYMCAで感じて欲しい。その思いから私の子ども達も現在メンバーとしてYMCAの野外活動に参加しています。「もやい結び出来るよ！」「太陽熱でご飯が炊けたよ」などと、キャンプから帰って来て嬉しそうに家で話してくれる様子を見てニヤニヤしています。私がYMCAで体験したことを我が子も体験して大きくのびのび育てて欲しい。心からそう願っています。

Profile



1963年 福岡県北九州市生まれ。
高校卒業後、当時の北九州YMCA予備校に入学。その後久留米大学に進学し、北九州YMCAボランティアリーダーとしての活動を続ける。
1989年(株)毎日新聞社に入社して以降は、発達障がい児を対象とした「のびのびキャンプ」のリーダーを務め活動を続ける。その後、自社の「毎日社会事業団」とYMCAを結びつけ、現在の北九州YMCAの発達障がい児サポートの助成を行っている。
現在、毎日新聞西部本社経理部長を担う。また、三人の子どもたちが北九州YMCA野外活動クラブの会員として活動に参加している。

(文責：北九州YMCA 田中 良治)